

21世紀型神母木環境整備計画

-自然・土木・建築一体型整備による地域空間魅力増大の試み-

1100416 寺本 健

高知工科大学工学部社会システム工学科

神母木の抱える問題点と可能性を整理し、自然、土木、建築一体型空間整備を行うことで、問題点（デメリット）を魅力（メリット）へと転換し、可能性をさらに増大させるような提案をこころみる。具体的には以下の8点を指針にすえた総合的な地域空間整備を行う。

1、旧街道物部川側の懸造住居の整備 2、旧街道のまとまりある町並みの創出 3、地域の歩車分離の徹底 4、旧街道東側の带状畑（緑地）空間の保持と整備 5、国道側の新風景の創出 6、学生下宿設置による地域活性化 7、東西交流（自然→みちと住居→畑→住居（+駐車場）→国道）の立体的強化 8、環境共生技術の導入

key words: 地域環境、自然、土木、建築

1. 背景

神母木は高知県香美市にある物部川沿いの街道に面する町である。その歴史は古く昭和初期には物部村から切り出した材木を運ぶいかだ流しの人夫の宿場町として栄えており、活気に満ちた地域であった。しかし、現在の神母木は過疎化が進み、居住者の高齢化も著しく、空家や家屋撤去後の空地なども目立ちはじめ、どこかもの寂しい風景となってしまう。また旧街道に平行に走る国道側は車両交通が行き交うだけで殺風景であり、落ち着きある旧街道や神母木村落を分断してしまっている。このように現在における神母木はさまざまな問題を抱える地域となっている。

しかしながら、この地域にも今後の豊かな空間形成につながるような可能性も見られる。旧街道の川側住居は川にはりだして建つ懸造建築となっており、狭小ではあるものの、物部川の美しい風景と一体化したユニークな町並みを形成している。またそれらと向き合う木造家屋の裏側には中庭的な畑が静かに広がり、国道側の喧噪を遮りつつ緑豊かな環境を提供している。さらに近隣にある高知工科大学の学生の行き来も多く、彼らがより積極的に当地域に関わるならば、町の高齢者と若年層が織りなす元気ある状況を生み出せる可能性もある。

そこで、当計画では、神母木の抱える問題点と可能性を整理し、そこに建築（土木）空間を介在させることで問題点（デメリット）を魅力（メリット）へと転換し、可能性をさらに増大させるような提案をこころみる。

2. 敷地

当計画の敷地は神母木のうち、鏡橋東側の物部川沿いの旧街道と、その東側に旧街道に平行して走る国道に挟まれた地域とする。元来旧街道を背骨とし

て神母木全域は有機的につながっていたが、現在は国道が旧街道を分断してしまっているため、地域空間も分断され対象敷地も物部川と国道に挟まれて孤立した状況となっている。

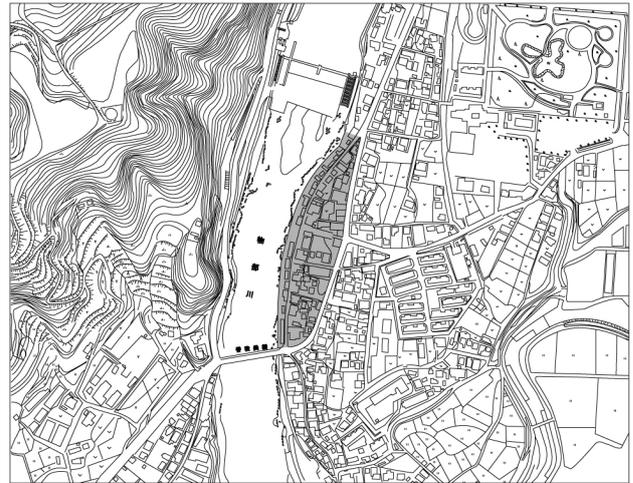


図1 対象敷地平面図

3. 計画の指針

本計画では、以下の点を指針にすえて総合的な地域空間整備を行う。

3.1 旧街道物部川側の懸造住居の整備

現在の住居を支える懸造はこの地域のユニークな風景を提供しているとはいえ極めて脆弱で安全性の上では大きな問題がある。そこでこの箇所を強化することで安全性を高め、さらには物部川への親水性を高められるように川側への立体的アクセスが可能となるように整備を行う。

3.2 旧街道のまとまりある町並みの創出

旧街道は木造1階～2階の平入家屋で形成されるまちなみを原型とするが、現在は空地化によって歯抜けが目立ち、3階建ての建物がランダムに散在しはじめたために統一感のないまちなみとなっている。そこで河川側を平屋、その対面側を2階建てに統一することでまとまりある旧街道風景を創出する。

3.3 地域の歩車分離の徹底

落ち着いた旧街道を車両専用の国道が分断することで当地域と近隣地域の行き交いが阻害され、また狭小な旧街道にも車両が侵入することで歩行者にとっては危険な状況が発生している。そこで国道を一部地下化することで旧街道や路地の分断箇所をつなぎ歩行者のスムーズな行き交いを可能にする。また旧街道を歩行者専用空間とすることで落ち着きある空間形成を目指す。

3.4 旧街道東側の带状畑（緑地）空間の保持と整備

旧街道東側には带状の畑や緑地が散在している。これらは当地域の良好な環境形成に大きく寄与している。そこで、旧街道東側（家屋裏側）にある小屋などをクリアランスし、緑地が南北方向に連続的、带状につながるように整備することで緑豊かな空間をより強化し、住民やここを訪れる人々すべてが享受できるようにする。

3.5 国道側の新風景の創出

現在国道側は駐車場が目立ち、それに面する建築もまばらであり、きわめて殺風景となっている。そこで駐車場は5基の機械式駐車場を設置することで居住者全ての駐車スペースをまかない、この塔状建築屹立による新風景をも形成する。なお、この駐車場へは地下から駐車を行う。またこの駐車場上部には自由に行き来できるようにし（EV+階段）、さらには各塔をブリッジでつなぐことにより、高所から物部川風景を楽しめる地域全体にとっての展望台とする。またこの高所を活用できるように各塔上部には風力発電機を設置する。

また駐車場設置や带状緑地設置によりクリアランスされた住居等は駐車塔の上部に設置する。これら高所の住居は光に満ちた開放的環境を享受することができる。

3.6 学生下宿設置による地域活性化

駐車塔下部および国道西側には学生下宿を設置する。彼らは定常的にまちに関わる存在となるのはもちろん、带状畑の耕作や旧街道側に居住する高齢者の仕事を手伝える存在となる。こうすることで若年層と高齢者が織りなす活気ある状況を創出することができる。

3.7 東西交流（自然⇄みちと住居⇄畑⇄住居（+駐車塔）⇄国道）の立体的強化

旧街道の物部川住居は2戸1を基本ユニットとする。またユニット間の空隙には河川へとアプローチできる階段を挿入する。また旧街道の河川側にある

四つの空き地を河川へとつながるよう斜面化しすべての人にとって物部川へのアプローチが可能になるようにする。また物部川側住居屋根をつたって東側住居屋根へ移行、さらにブリッジによって国道側まで移行することを可能にする。また、この東側住居の空隙も背後带状緑地へと通じる路地とする。带状緑地からはその東にある学生下宿や駐車塔へアプローチ可能とする。こうすることで当地域の現状では脆弱であった東西交流の強化、活性化が可能となる。

3.8 環境共生技術の導入

各住戸は優れた温熱環境が得られるパッシブソーラーシステムを導入する。また夏期には物部川の冷気を屋内や休憩スペース各所に導入する風の道を設ける。電気については小型風力発電と太陽電池を併設する。

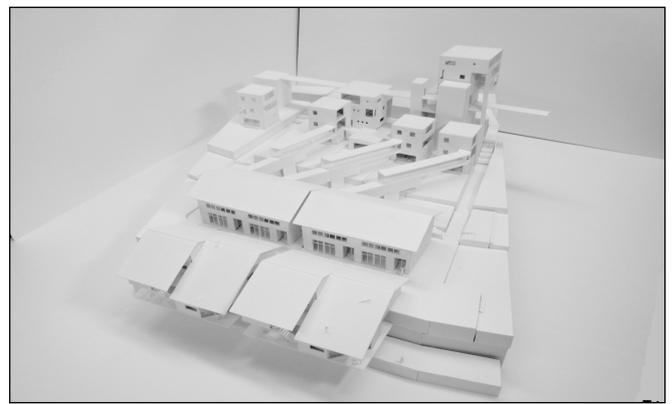


写真1 模型写真1

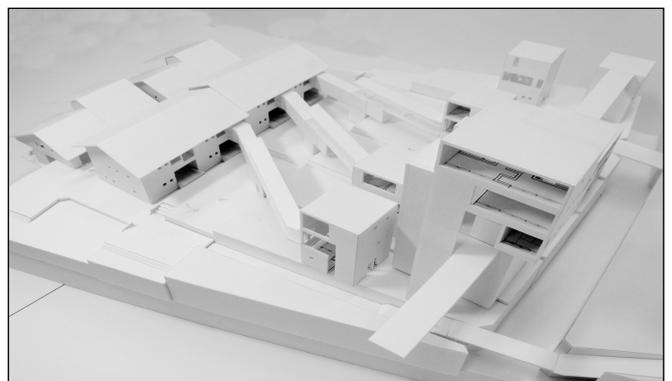


写真2 模型写真2



写真3 模型写真3